

平成 25 年度 事業シート

第5次廿日市市総合計画（後期基本計画）

基本目標 1 健やかな暮らしを支え、安全で快適に暮らせるはつかいち
 政策目標 5 多様な暮らしが選べ、快適に暮らせるまちに
 重点的取組 4 手軽に出かけ、移動できる環境を整える

担当課名	建設部 都市・建築局 都市計画課		
予算科目	会計	01	一般会計
	款	02	総務費
	項	01	総務管理費
	目	12	生活交通対策費

事業名	地域公共交通再編事業	事業開始年度	平成 22 年度
	生活交通の利便性の向上	根拠法令 条例 個別計画等	廿日市市生活交通再編計画 (平成23年3月)

1 事業の目的、意図

目的	【対象】誰の(何の)ために	【目指す姿・意図】(いつまでに、どういう状態に)
	路線バスの運行していない地区等のバス利用者	市民が手軽に出かけ、移動できる環境を整える。(生活交通として最低限の運行確保)

2 事業の実施主体・関係団体・役割

実施主体	関係団体(パートナー)	事業実施に係る市役所(職員)の役割
市	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 生活交通再編計画に基づき、バスの再編を行う。 廿日市市公共交通協議会を開催する。 沿岸部の系統整理を行い、実証運行を実施する。

3 平成 25 年度 決算 (事業の内容・コスト情報・目標到達見込)

実施した事業の内容(活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> 廿日市市公共交通協議会の開催(公共交通施策に係る関係機関の合意形成を図る) 構成員：学識経験者、住民代表、交通事業者、国、県、関連市等(3回開催) 沿岸部バス見直しの概要(平成25年12月2日から実証運行開始) 沿岸部自主運行バスについては、サービス向上に合わせた運賃見直しを行うことで、生活交通の利便性向上と持続可能な交通体系の構築を目指す。 【廿日市さくらバス】 現行の2車体制から1台増車し(大野地域から自主運行バス車両をシフト)、1車体制とすることで増便や時間延長、交通不便地区乗入れ等の要望に対応。 【おおのハートバス】 現行の3車体制(東西横断ルート・東ルート・西ルート)から車両購入により4車体制とした。幹線としての東西横断ルートを2台で運行し、支線としての東・西ルートの役割を明確化することで、増便やわかりやすいダイヤ設定等の要望に対応。 事業費関連 【歳出】 公共交通協議会及び交通会議事務費 106,560 円 生活交通再編支援業務委託料 5,040,000 円 廿日市さくらバス運行負担金 13,032,820 円 おおのハートバス運行負担金 10,415,395 円 計 28,594,775 円 		
	<p>①のうちのH24から繰越 H25からH26へ繰越</p>		

コスト情報(円)	項目	平成 24 年度決算	平成 25 年度決算①	①のうちH24から繰越 H25からH26へ繰越	
	財源内訳	直接事業費 A	16,736,090	28,594,775	
国庫支出金					
県支出金					
借入金(市債)		4,400,000			
その他(使用料など)					
市(市税など)		12,336,090	28,594,775		
人件費(按分) B		1.80 人	1.80 人		
		15,789,600	15,274,800		
	総事業費(A+B)	32,525,690	43,869,575		
単位コスト換算	① 人口(4月1日現在)	118,000 人	117,680 人		
	② 市民1人当たり	276	373		

到達目標	活動及び成果指標	単位	H24実績値	H25目標値	H25実績値	H27目標値	備考	
	活動	バス再編運行計画の策定(佐伯、吉和、廿日市、大野の4地域)	%	50	100	100	100	
	成果	市自主運行バス利用者数	人	336,665	380,000	317,230	400,000	